

策定プロセス訪問調査事例

愛媛県中山町

愛媛県中山町

1. 中山町の概要

- ・松山市南方の農山村。面積約75k㎡、人口約5000人、高齢化率29%
出生数30人で少子化が著しい。
- ・課長（保健婦）、事務1、保健婦3
- ・管轄保健所は、伊予保健所（管内1市3町1村、人口92,875人）

3. 訪問調査でわかった策定プロセスの売り

- ・保健所管内で統一されたフォーマットによる計画策定。
- ・従来からの事業計画づくりの延長線に母子保健計画があった。
（新たに頑張らなくても良かった。）

4. 各策定段階の促進要因

1) 準備段階、合意形成

- ・町の課長（保健婦）がすべての活動に積極的で、母子保健計画の説明が県からあった時には、町独自での取り組みを考えていた。
- ・保健所主催の保健婦定例会で1年間母子保健計画について取りあげ、その中で計画書に使用する管内の統一フォーマットを作成した。

2) ニーズ把握

- ・アンケート調査の実施、分析。
生後6か月～満5才児をもつ保護者

3) 計画化

- ・保健活動について、毎年事業実績及び翌年度の計画について作成されており、今回の計画策定も苦にならなかった。

4) 施策の実現

5) 住民参加

6) 保健所の役割

- ・保健所主催の保健婦定例会で1年間母子保健計画について取りあげ、管内市町村保健婦の研修を実施。その中で計画書に使用する管内の統一フォーマットを作成した。

なかがやまの母子保健

上位目標	下位目標	指標	現状(事業名)	評価	問題点	改善点	具体策	参考資料
<p>4 疾病や障害がある子供に対する適切な指導が受けられる、地域で伸びと成長できる。</p>	<p>① 病状の重い乳幼児健診が身近で受けられ、適切な指導が受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科医師数 ・病状までの距離 ・療育教室等の充実 	<p>① 乳児・1歳半・3歳児健診の施行 ② 精密検査が必要な児については大学病院等を紹介。 ③ 療育が必要な児については早期集団保育のすすめ ④ 療育相談事業(親子教室)の施行。(2回/月) 専門機関への紹介 ◎あゆみ学園 ◎ことばの教室(都中小) ◎身体障害者センター等 ⑤ 入園前連絡会(1回/年)</p>	<p>就学前の連絡会が行なえていない。</p>	<p>病状が重なり、教室に来ないケースの中に、症状が悪化するケースが多い。</p>	<p>統合保育では対応できないケースについて個別指導の回数を増やす。</p>	<p>親子教室の回数を増やす。(3回/月) 療育前・幼稚園へのつながりをスムーズにするために、町内の保護者に教室に参加してもらう。</p>	<p>PII</p>
<p>② 小児療育等の児に対する医療が適切に行われ、在宅ケアの支援が得られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・療育手帳発行者の数 H7.4.1現在 18歳未満 4名 18歳以上 32名 計36名 	<p>③ 地域で障害児をもつ家族が支援される。</p>	<p>即ヘルパー派遣 小児マシンのケースに2回/月 訪問(1ケースのみ) 2回/月 親子教室への送迎。</p>	<p>就学後の指導が困難なケースがまれにいる。</p>	<p>母子管理票の利用し、問題を抱える児については、就学前に小学校の発達検査へ向き直しを行う。</p>	<p>療育前・幼稚園の体験入園日を行う。 就学連絡会を必要に応じて行う。 療育相談の必要な学生とその保護者に対して、発達相談会を夏休み中に行なう。(希望者のみ)</p>	<p>親子教室の体験入園日を行う。 就学連絡会を必要に応じて行う。 療育相談の必要な学生とその保護者に対して、発達相談会を夏休み中に行なう。(希望者のみ)</p>	
<p>③ 地域で障害児をもつ家族が支援される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会に所属している人の数 	<p>家族会の連絡をとり、必要なケースに提供</p>						

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (愛媛県 伊予郡 中山町) 市町村行政内部の作業 記載担当者名 (石本 まき)

市町村行政内部の作業	住民参加	保健所の関与
<p>【Ⅰ】事例の概要</p> <p>◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、地理的条件、社会資源等 ・市町村の組織体性 ・住民組織の成熟度等 ・県の取り組みと保健所の特徴 ・その他 	<p>市町村行政内部の作業</p> <p>人口5078人。周囲を山々に囲まれた険しい地形で、全体の64%が森林で平地の少ない中山間地帯である。老年人口は28.1%と年々高齢化率が進み、20歳代の若者の町外流出が目立つ。核家族化が進み、一般世帯の44.7%を占める。</p> <p>平成5年の機構改革により、保健福祉課ができた。保健福祉課が社会福祉協議会も同じ保健センターの中に事務所を置いており保健福祉の連携が密に取れる状態である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉課課長、課長補佐、保健衛生係すべて保健婦であり、今回の計画も理解を求めたままでもなく進んで先取りし、計画策定することができた。 ・s58年から健康づくり推進委員会が発足しており、その中の母子保健、学校保健部会の中で日頃から研修や検討を深めていた住民の声を吸い上げる姿勢が日頃からあった。 ・平成8年1月、首長に向け、県から計画策定についての話が有り、すぐに部会に相談がけ、母子保健計画策定のための会が発足した。 	<p>毎月保健婦で保健婦定例会を行っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の住民組織があったので、組織作りについての働きかけはしなかった。なるべく早く1回目の連絡協議会をするように働きかけた (H7年末ころ)
<p>【Ⅱ】計画策定の準備</p> <p>◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<p>母親代表の選出は、担当保健婦が呼びかけ、ちびっ子広場の母親たちに任せました。</p> <p>①課長が保健婦であったため、以前から保健事業についてたいへん理解があり、計画作りに関しては、非常にスムーズに取り組めた。</p> <p>②母子保健連絡協議会の構成メンバーについては、以前から組織してあった中山町健康づくり推進協議会の中の、「母子保健専門部会」のメンバーを置き換える形とし、伊予保健所長、民生児童委員、町内小児科医師、議会議員、住民の代表をメンバーに加える形をとった。結局メンバーは伊予保健所長、中山町校長、町内小児科院長、看護婦、養護教諭、産科医師代表、議会議員、民生児童委員、地域福祉係、伊予保健所長、ママさんクラブ代表、保母、心理判定員、地域福祉係、伊予保健所長、産科医師代表、産科医師代表、保健福祉課課長、課長補佐、他保健婦3名であった。(会議は計5回開催)</p> <p>③平成8年2月の会場で母子保健専門部会を置き換えて、母子保健連絡協議会にすることについて了解を得、2回目の会場の時に保健所長を招き、これからの母子保健について講話があり、この会で計画を策定する事について承認を得た。</p> <p>④会長を選出し、会を運営。</p> <p>「苦労したこと」 特になし。電話1本で協力依頼できるような日頃からの人間関係が出来ていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所運営協議会 (H8年1月) で各市町村長に計画策定目的、意義について説明した。 ・市町村主幹長会議 (H8年5月) で課長レベルの理解を求めた。 ・管内保健婦定例会で、講師を招き学習会を開催した。 「母子保健福祉計画について」 医療技術短期大学 宮内清子助教 「離乳食の進め方」 伊予保健所 田中スガ子栄養係長 「母子保健計画策定に基づき意見交換」 初音孝 健康指導員 稲垣優係長 「母子保健計画とこれからの母子保健」 西条中央保健所 木村真理先生 「運動発達と感覚統合について」 愛媛聖徳医療園 田内広子作業療法士
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・人的体制 ・時間の確保 ・その他 	<p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師や心理判定員の雇い上げについては、町独自でやっていたので問題はなかったが、保健婦の平成9年度人的体制については配属し、人的予算をとるよう働きかけた。 ・健診時の必要物品を徐々に買いそろえるよう働きかけ、健診のチェンク項目を再確認する学習を定例会で行った。
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点を整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーマン、範囲、手法 ・検討体制 (【Ⅱ】と同様) <p>②具体的手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査 	<p>①イメーজからの出展 それぞれの保健婦が持っている母子保健のイメーজや、問題点を保健婦で行われた定例会で話し合い、中山町の母子保健事業を整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態を把握するため、母子保健活動計画フォーマットに沿って、既存資料を基に指標や現状を明確にした。 <p>②既存の資料を整理し、保育園でのアンケート結果、人口動態、園児、児童、生徒の推移予測表、う遊、罹患率の推移、中山高校エイズ予防協議会時のアンケート結果、小児成人病検診の結果等必要な資料を収集した。現在の母子保健事業が、住民のダイナミズムに合致しているのか等の現状把握を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内会議や保健婦定例会の中で、住民のニーズ調査をした方がいいとの案が出され係内でアンケートの集約を作成し、定例会で検討後、調査を実施した。アンケートは宇和島保健短期大学で実施されたアンケートの中から、必要なものを抜き取りそれに町への要望を加え、1枚にして行った。 ・会員のメンバーの中に若い母親の代表や保母さんに入っていただき現場の声をあげてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診の状況資料を配布。(経験者検査データ結果) ・エイズ講習内容、結果資料を配布。 ・全国先進地の保健計画 (藤内先生) をコピーし情報提供をした。

<p>【IV】計画(施策)化 ① 具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>② 内容 ・ 具体の目標、数値目標 ・ 評価指標</p>	<p>① 計画策定のための母子保健連絡協議会を開催し(5回)、講話を交えたり、現状や課題を示し、意見交換を行った。意見は計画フォーマットに整理し、育児アンケートの結果も併せ、関係会議にて会議終了後、担当保健師が中心となり、まとめた作業を行い、計画案を作成した。保健師定例会にて、計画の策案について指導を受け手直しし、作業は分担して行った。</p> <p>② 中山町の特性を踏まえ、他の計画との統合性を考慮しながら、上位目標、下位目標を設定。上位目標(下位目標)として、1.妊娠から出産までが安心にできる(①妊娠早期から適切な管理と保健指導が受けられる)②妊娠において、職場で種々配慮がなされる③ハイリスク妊婦でも、万全の体制で出産できる) 2.安心して子育て出来る(①両親が出産育児に必要な情報が得られ、必要に応じて専門職による指導が受けられる)②乳幼児を持つ父母が職場において便宜を図ってもらえる③産後ケアが可能な保健所が近くにあり、質の高い保育が受けられる) 3. 疾病と事故を未然に防ぐ(①適切な時期に予防接種を受けられる)②乳幼児から歯科の予防措置が受けられ、歯芽が強化されると共に正しい歯磨きを身につけ、その実践ができる④子どもが安心して遊べる場所が整備されている⑤小児成人病検診等が行われ、幼少期から必要に応じて保健指導が受けられる) 4. 疾病や傷害があっても、適切な指導が受けられ、地域でのびのびと成長できる(①精度の高い乳幼児健診が受けられ、地域でのびのびと成長できる)②小児科等の施設が適切に行われ、在宅ケアの支援が得られる③地域で障害児をもつ家庭が支援される 5. 自己決定能力を養育し、健全な思考期をおく(①早期からの教育により年齢にふさわしい知識が得られる)②思考期の子供たちの持つ悩みを周囲の大人が理解し、その克服を支援できる③障害者や高齢者に対して正しい知識をもち、思いやりのある人間に成長する) ④適切な効果のない事業、費用の割には効果のない事業等の見直しをし、計画を修正していき、住民の反応をいっつもキャッチアップできるようにし、定期的な評価が出来ようようにアセスメント表を作成する。</p>	<p>・ 中山町担当保健師が母子保健連絡協議会に5回出席。保健師が母子保健計画作成の必要性、母子保健の動きについて説明。(1回) ・ 管内保健師定例会において、各市町村の母子保健事業の現状を評価し、それを元に管内レベルで保健計画フォーマットを作成。 ・ 予算のことなど、問題となったときにタイムリーに研修会、講座を取り入れた。 ・ 中山町で可能なこと、不可能なことを一緒に考えた。他の市町村に比べ、住民にとってサービス低下にあたる予防接種の公費負担について会で提示した。</p>
<p>・ 計画の具体化 ・ 9年度予算への反映</p> <p>・ 計画の進行管理 組織体制</p> <p>・ 住民、関係機関への周知等</p>	<p>・ 会のメンバーに住民の代表を加えた。</p> <p>・ 幼児科理教室等を行う中で保護者等から声がよく出るようになった。</p>	<p>・ 療育施設のない伊予地区において管内として考えていけるよう合同教室、研修会を開催。 ・ 3歳健診がスムーズに行えるように、人的協力をした。</p>
<p>【V】計画の具体化 ・ 9年度予算への反映</p> <p>・ 計画の進行管理 組織体制</p> <p>・ 住民、関係機関への周知等</p>	<p>・ 新規事業については、予算や連携の関係上計画どおり実行できないものもあるが、平成9年度の事業に組込まれたものは妊婦健診、B型肝炎母子感染防止事業、妊婦健診検診、ハイリスク妊婦指導、未受診者訪問指導、母乳食講習、親子教室、幼児科理教室、ポランティス入門講座、親子教室、親子教室、思春期体験学習である。青年学校も計画しているが対象者の集まりもあり検討中である。</p> <p>・ 計画の進行管理は母子保健専門部会で行っていくと共に住民の声を聞きながら見直しをしていく。</p> <p>・ 広報「なかやま」に計画の内容を、シリーズで毎月掲載している。写真を交え、高深にわかりやすく一目でわかるような工夫をしている。</p>	<p>・ 幼児科理教室等から声がよく出るようになった。</p>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ(キーマンズも記入)</p>	<p>・ より早い時期からの健康教育と予防活動を行い、すべての子どもたちが健やかに成長できる地域社会を目指している。</p> <p>・ エニークな取り組み <親子科理教室・幼児科理教室・NPO教室など></p> <p>・ 住民に近い立場での事業の展開(常に住民の声を聞きながら、計画の修正をしていく。)</p> <p>・ ここは計画を立てるために特別に集めたものでなく、日頃のなれにのって計画を立てたという印象を受けた。「燃える人がいる」「今までの土台がある」「積み重ねがある」「豊富な人材が居る」がキーワードとなり、計画を立てる上で、また事業を展開する上で大変力になっている。</p> <p>・ 計画策定担当者の満足度、感想 学校保健との関係が密になった。今まで老人福祉に目を向けることが多かったが、他からの視点でいろいろなる事業をしていかねばならない。母子が基本であり振り返ることの大切さを感じた。一母親として楽しく取り組むことができた。当時大変だったが今は忘れていく。あまり苦労はなかったと思う。住民により近い立場で考えることができた。不安な人への関わり、特に子育ての大切さを感じた。母子を取りまき関係者が集まり、日頃の思いを出し合い問題点や「こうあってほしい町の姿」を共有できたのが良かった。</p> <p>・ 国や県に対する要望 所原の確保</p>	<p>・ 療育施設のない伊予地区において管内として考えていけるよう合同教室、研修会を開催。 ・ 3歳健診がスムーズに行えるように、人的協力をした。</p>